

平成 29 年度 第 1 回岡崎城跡整備委員会会議録

開催日時：平成 29 年 5 月 8 日（月）午後 2 時 00 分～午後 4 時 30 分

開催場所：岡崎市福社会館 3 階 視聴覚室

出席委員：7 名

瀬口哲夫委員（委員長）・加藤安信委員（副委員長）・奥田敏春委員・
中井均委員・堀江登志実委員・丸山宏委員・三浦正幸委員

説明のために出席した事務局職員：10 名

社会教育課：小野鋼二課長・荻野泰久副課長・柴田英代文化財係長・
小幡早苗主任主査・山口遥介主査・中根綾香主事・
まちづくりデザイン課：木下政樹歴史まちづくり係長
公園緑地課：横山晴男課長・河合寿八主任主査・山口愛理主事

傍聴者：なし

次第

- 1 委員長及び副委員長の選出
- 2 議題
 - (1) 短期事業計画スケジュール（案）について
 - (2) 平成 29 年度整備事業計画（案）について
 - ア 社会教育課事業
 - (ア) 年間事業計画
 - (イ) 発掘調査事業
 - (ウ) 石垣保存修理基本計画策定事業
 - (エ) 菅生川端石垣整備事業
 - イ まちづくりデザイン課事業
歴史文化資産案内サイン等整備基本計画（岡崎公園）
 - ウ 公園緑地課事業
 - (仮) 石碑等再配置検討業務

議事内容

- 1 委員長及び副委員長の選出
 - ・委員長 瀬口哲夫委員
 - ・副委員長 加藤安信委員
- 2 議事
 - (1) 短期事業計画スケジュール（案）について

事務局：配布資料 1 に基づき説明

(2) 平成 29 年度整備事業計画 (案) について

ア 社会教育課事業

(ア) 年間事業計画

事務局：配布資料 2 - 1 に基づき説明

(イ) 発掘調査事業

事務局：配布資料 2 - 2 に基づき説明

【質疑応答】

< 月見櫓発掘調査について >

委 員：擬木柵は撤去して調査するのか。

事務局：公園緑地課と協議する。

委 員：月見櫓トレンチ は、月見櫓全体の 3/4 位だが、礎石が出てきたとして、全体を掘ることは考えられないのか。

事務局：今回全部調査してしまうことが良いことなのか。再発掘のため堆積状況を残しておきたい。

委 員：月見櫓は三間四方くらいの櫓のため、通常、櫓の中の礎石は中央に 1 石しかないはず。西から 3m のトレンチでは礎石が外れてしまうため意味がない。南側の方の石垣は将来積み直す必要があるから、その時に全体的に掘るので、南側のトレンチをなしにして、西側のトレンチを 4 m 幅にした方がよい。南側は掘ると石垣の天端石が出るだけで意味がない。脇多門は天端を掘るのは意味がないので、掘るなら北側を掘る。北側は布基礎で石列が出てくる。多門の真ん中か真ん中でなくてもよいが、どこか 1 箇所南北方向に幅の細いトレンチを入れると布基礎のため必ず引っかかる。

委 員：深さの想定は。

委 員：大体石垣天端石と同レベル、礎石は少し凹むくらいだろう。

委 員：石垣を毀損したら困る。

事務局：石列が見えているものが気になるが、石垣天端石の掃除程度である。

委 員：月見櫓、明治以降について年表を整理すること。

< 菅生曲輪柵形発掘調査について >

委 員：トレンチ：城門を通過するところの水路は 1 本に限られるため、トレンチ は不要。

トレンチ：城門の鏡柱の間は「蹴放ち」という棒の下に石が並んでいるだけ。その石は撤去されて出てこないのも何も出てこない。トレンチは無駄。

トレンチ：枡形の中は番所以外は建てず、広場なので何も出てこない。南側の枡形の端が前回調査で見つかっていない。南面が石垣で、北面は雁木もしくは土塁、土留めの石。北側の方には内側は何も出てこないか1列。そうすると外側の石垣を撤去した痕跡を探したほうが良い。南側の石垣の位置を確定するために、枡形の外側に石垣の位置を探るよう、南北方向にトレンチを入れた方がよい。

事務局：H12年度調査の位置をもう一度掘るのか。

委員：H12年度調査で遺構面まで掘ってしまっても無かったなら掘っても無駄ということ。そうするとトレンチの東側の枡形の想定の間でやっと遺構が引っかかってくる。

事務局：トレンチの東側未調査部分ということか。

委員：そうである。

裏側はただの土手しかない。雁木は内側。内側もすべて雁木を作るわけではない。雁木でないと土手。岡崎城の帯曲輪にほんのわずかに雁木が出ているが、帯曲輪の状況を見ているとぐるっと雁木がでてくるとはとても思えない。そうすると内側は土手だったということ。

委員：南側枡形石垣はもう確認ができないのか。

事務局：H12年度調査では見受けられない。

委員：枡形の絵図を見ると石垣が回っていて、内側に雁木があるのでは。

雁木は相当重要な門のみ。名古屋城本丸大手門等、大城郭の城門ではそうするが、ここでは土手くらいでいいのでは。

門の高さはせいぜい1m、石垣の根は深く入れられていない、根石まで含めて取られてしまったとすると石はない。もし見つけるとしたら、面的に掘って石が据わっていたへこみを探す。

事務局：トレンチ位置を整理する。

トレンチの東側、石垣の抜き取り痕を再度確認。

トレンチのT字状になっているところを南北軸を広げる。

トレンチは門90度折れるところは西側を伸ばすか(道確認用)。

トレンチの代わりに菅生曲輪の堀の東端部の確認。

委員：図の備考に図の変化、何が分かっているか詳しく書いたらどうか。

<籠田公園発掘調査について>

委員：戦災復興で瓦礫を埋めたのか。区画整理の報告書が何かで瓦礫の処理、どこに捨てたか調べること。

区画整理の従前従後の図があると土地の改変が分かる。

委員：籠田公園の歩道を掘るわけにはいかないのか。

委員：図面でどのあたりか見通しをつけてトレンチを決めた方がよいのでは。

事務局：道路部局と調整する。

委員：獅子ヶ瀧はどういうところなのか。謂れ等。河岸段丘が続いているのか。

委員：NTTの敷地のため今回はできないかもしれないが、外堀をどうしても見つけるといふ気概がないといけない。

委員：前本多時代は空堀、水野時代に水堀に。元々水がたっぷりあったわけではないので人工で作ったのではないか。城下町の排水の整備がされたのではないか。

委員：水が無くても滝と言ってよいのではないか。明治以降庭園の可能性は。料亭みたいなものは。名所的な。

委員：元々空堀だったと言っても、自然の溪谷を利用して外堀を作っているため、段丘の差、獅子ヶ瀧という地形的な形状はあったわけで、雨季に水が垂れてくるということと呼ばれていたのではないか。

委員：近代の歴史を含めてわかると良い。

(ウ) 石垣保存修理基本計画策定事業

事務局：配布資料2-3に基づき説明

(エ) 菅生川端石垣整備事業

事務局：配布資料2-4に基づき説明

【質疑応答】

< 菅生川端石垣整備事業について >

委員：追加指定してから整備を進めてはどうか。早く追加指定の手続きを取る必要がある。ここの石垣は重要であるので国指定になってもよいのでは。市の指定では心配。価値を毀損するから早く指定を。国指定になれば補助金ももらえる。史跡指定を先にして方針を決めないと、整備は焦ってやると問題が出てくるのでは。

事務局：現状、管理権限は県土木であり、即指定は難しい。再度調整するが、同時並行的に進め、協定書なども考えている。

委員：石垣修理基本計画を作る、長期的には指定を目指す。指定があればブレーキがかかる。将来的にはスロープの位置を変えとか。基本計画にどこまで書くか。長期的な視点で石垣を見えるようにし、史跡指定をする、というのを目標で書き、短期的には協定、また中期的にどうするというのを整理して。

委員：全体として保存しなくてはいいけないという観点から、埋まっているところも含めて整備計画をつくるということを念頭に置いて考えるのが重要。

委員：整備をきちっとすればそれから指定もありうる。報告書をきちっと出しておけば後に史跡になることは可能だが、バラバラでやってしまうと後で指定されにくい。整備計画はきちっとしたもので上げておかないといけない。

委員：石垣保存修理基本計画策定事業と菅生川端石垣整備事業で議案としては別になっているが、別物ではないということをはっきりしておいてほしい。

委員：菅生川端石垣の西桁形の石垣を見せるというのはどこまで出すのか。胴木まで出すのか。傷んでしまう恐れがあり懸念される。

事務局：胴木を見せることはない。

委員：石垣の安全上埋め戻すということも含め、市民向けの遺跡としての重要性を示す。日本の中でも特殊な石垣ということを積極的に。

<石垣保存修理基本計画策定事業について>

委員：徳川氏の時代まで石垣の年代が遡るという意見も出されており、石垣の年代比定を進めてほしい。

委員：石垣カルテをしっかりとつくること。石垣の名称を統一すること。

委員：ハラミ係数は出しているのか。

事務局：係数までは出していない。

委員：(石垣測量)調査時に木は切るのか。

事務局：切らずに行いたい。

委員：3Dで測量しておかないと後で使えないのでは。

事務局：予算的に厳しいので、今後追加調査をする箇所とどの精度の調査をするかを考えていく。

委員：量は取れないかもしれないが、3Dでやってみてどれくらいの成果があるか検討し、年数がかかってもやるとか、写真を撮るだけでは古いのでは。

事務局：天守台だけでもやりたいが、調査内容を精査する。

委員：石垣の基本調査があつて10~20年かけて全部石垣カルテを作る、その中で問題があつたら修理するというのが良いのでは。

3Dでできるだけ早くすべてデータをとる。そういうことを少しずつやっていく。

委員：石垣の図面は断面図がないとあまり意味がない。

配付石垣立面図は本来すべて同じ表現になっていないといけないが、表現が統一されていない。ある意味これでは役に立たない。石が空中に浮いている。図化の仕方に注意を。この修正から始めないといけない。

イ まちづくりデザイン課事業

歴史文化資産案内サイン等整備基本計画（岡崎公園）

関係課：配布資料2-5に基づき説明

【質疑応答】

委員：デザインができれば作られる前にこの委員会にモノが出るのか。

設置基準を作り、寄附は受けても（寄附者の名前を看板の）前に書かないようにすること。

関係課：所管課が分かれているところを調整していかななくてはいけないと思っている。

イ 公園緑地課事業

（仮）石碑等再配置検討業務

関係課：配布資料2-6に基づき説明

【質疑応答】

委員：石碑等、実態調査はしたのか。

関係課：どこに何があるかは行っているが、経緯までは把握しきれていない。

委員：実態を調べること。

撤去には問題がある。何から撤去できるか、優先度の計画を。

文化財としてふさわしくないというのは、どういう点でふさわしくないかの理由を。寄附は慎重にしてほしい。